

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	看護学概論		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		講義時間	29
			テスト時間	1 (45)
学習目標	1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 3. 人間にとっての健康の意義について理解する 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する			
回	主 題	内 容		授業方法
1回 2回	1. 看護とは	1) 看護の本質①看護の変遷②看護の定義 2) 看護の役割と機能 ①看護ケア ②看護実践と質の保証 ③看護理論家の看護概念		*アクティブラーニング 講義/グループワーク
3回 4回	2. 看護の対象理解	1) 人間の心とからだ 人間の欲求(ニード) 2) 生涯発達し続ける存在としての人間		講義/グループワーク
5回 6回	3. 国民の健康状態と生活	1) 健康とは 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル		講義/グループワーク
7回 8回	4. 看護の提供者	1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題		講義/グループワーク
9回 10回	5. 看護における倫理	1) 職業倫理と看護倫理 倫理原則、患者の権利とインフォームド・コンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 医療における倫理的問題 4) 専門職の倫理規定 ①倫理綱領 5) 倫理的ジレンマ		講義 グループワーク
11回 12回	6. 看護提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策 5) 看護サービス管理 6) 医療安全と医療の質保証		講義 グループワーク
13回 14回	7. 広がる看護活動領域	1) 国際化と看護 2) 災害時の看護		講義/グループワーク
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験 70%・課題(レポート等) 30% 評価			
テキスト	系統看護学講座 専門I 看護学概論 基礎看護学①(医学書院) 新版 看護職の基本的責務(日本看護協会) フローレンス・ナイチンゲール:看護覚え書き(現代社) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)			
参考文献	看護の本質(現代社)			
自己学習時間	15時間	事前学習・事後学習	課題レポートに取り組む	

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	共通基本技術		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護技術の基本原則	1) 看護技術の特徴 2) 看護技術の範囲 3) 看護技術を適切に実践するための要素		*アクティブラーニング 講義
2回 3回	2. 人間関係の技術	1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4) 効果的なコミュニケーションの実際 5) コミュニケーション障害への対応		講義 演習
4回	3. 記録・報告	1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成		講義
5回	4. 安全確保の技術	1) 誤薬防止 2) チューブ類の予定外抜去防止 3) 患者誤認防止 4) 転倒・転落防止 5) 薬剤・放射線曝露の防止		講義
6回	1. 感染予防の基礎知識	1) 感染と感染症 2) 感染成立の条 3) 院内感染の防止 4) 標準予防策の基礎知識 (1) 手指衛生 (2) 個人防護用具 5) 感染経路別予防策の基礎知識 (1) 接触予防策 (2) 飛沫予防策 (3) 空気予防策		講義
7回	2. 標準予防策の実際	1) 衛生的な手洗いの実際 (1) 流水による衛生的な手洗い (2) 擦式消毒用アルコール製剤による衛生的な手洗い		演習
8回		2) 個人防護用具の取り扱いの実際 (1) 手袋 (2) サージカルマスク (3) フェイスシールド (4) エプロン 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実際		演習
9回	3. 洗浄・消毒・滅菌 4. 無菌操作	1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 無菌操作の基礎知識		講義
10回	5. 無菌操作の実際	1) 滅菌物の取り扱いの実際 (1) 滅菌鑷子 (2) 滅菌手袋		演習

11回	6. 針刺し防止策	1) 針刺し防止の基礎知識	講義
	7. 医療施設における感染管理	1) 感染管理のための組織 2) 感染症発生時の対応	
12回 13回 14回	1. 看護における学習支援	1) 健康に生きることを支える学習支援 2) 健康状態の変化に伴う学習支援	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験 レポート課題		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)		
参考文献			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	日常生活の援助技術 I (環境)		対象学年・時期	1年次 前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		講義時間	29
			テスト時間	1(45)
学習目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 療養生活の環境	1)人間の健康と環境 (1)環境の意義 ①環境とは②人間と環境③看護学における環境 ④快適な環境の要素		講義
2回	1. 療養生活の環境	2)生活環境の調整 (1)人と環境 (2)療養生活と環境 (3)生活環境の調整(温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー) (4)測定器具の使用方法		講義・演習
3回	2. 病室環境	1)病室の構成 (1)病室の環境と病床内環境(共有・居住) 2)病院で働く人々 3)療養環境のアセスメント (1)援助の必要性 (2)病室・病床の選択		講義
4回	2. 病室環境	4)療養環境の実際 (1)病棟見学 ①病棟の構造 ②病室の構成、 ③病室の環境測定(温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー)		病棟見学 (時期を考慮して変更可)
5回	3. 療養環境の整備	1)ベッドメイキング (1)ベッドメイキングとは (2)リネン類の取り扱い		講義
6回	3. 療養環境の整備	2)ベッド周囲の環境整備 (1)病床を整える援助技術 ・環境整備の基本		演習
7回	3. 療養環境の整備	3)ベッドメイキング (1)リネンの取り扱いの実際 (2)ベッドメイキングの実際		演習
8回	3. 療養環境の整備	3)ベッドメイキング (2)ベッドメイキングの実際		演習
9回		(3)リネン(シーツ)交換の実際		

10回	3. 療養環境の整備	4) 臥床患者のリネン交換 (1) 臥床患者のリネン交換	講義
11回	3. 療養環境の整備	4) 臥床患者のリネン交換 (2) 臥床患者のリネン交換の実際	演習
12回	3. 療養環境の整備	1) ベッド周囲の環境整備 (1) 病床を整える援助技術 (環境調整の意識) ① 患者の状態に応じた環境調整 ・ 療養環境のアセスメントと実際	演習
13回		2) 患者の状態に合わせた環境とは	講義・演習
14回	3. 療養環境の整備	ベッドメイキング 技術チェック	技術チェック
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)		
参考文献			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う

* この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	教員	担当時間数	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1.栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 2.排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する		
回数	主題	主な学習内容	講義形態
1回	1.人間の健康と食事	1) 食事の意義 (1) 食事の身体的意義 (2) 食事の心理的意義 (3) 食事の社会的意義 2) 健康な食生活	講義
2回		3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力及び食欲、食に関する認識のアセスメント	講義
3回	2.医療施設で提供される食事 3. 食事の援助	1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法	講義
		1) 経口的栄養摂取の援助 (1) 食事援助時の環境調整 (2) 食事援助により生じる問題とその問題を回避する方法 (3) 視覚障害、高次機能障害、嚥下障害時の食事援助	講義
4回		2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養法	講義
5回	4. 食事の介助	食事の介助の基本	演習
6回	5. 経鼻胃管栄養法	経鼻胃管チューブ挿入 経管栄養法による栄養剤の注入	演習
7回	6.人間の健康と排泄	1) 排泄の意義 (1) 排泄の身体的意義 (2) 排泄の心理的意義 (3) 排泄の社会的意義 2) 排泄行動のアセスメント 3) 排泄物の観察	講義
8回	7.対象の状態に応じた排泄の	1) 自然な排泄を促す援助 (1) トイレにおける排泄の援助	講義

	援助	(2)ポータブルトイレにおける排泄援助 (3)床上排泄の援助(尿器・便器)	
9回		2)対象の状態に応じた援助 (1)オムツによる排泄の援助 (2)摘便	講義
10回		尿器・便器を用いた排泄の介助、オムツ交換	演習
11回		3)排泄を促す医療処置を伴う援助 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿	講義
12回		一時的導尿	演習
13回		3)排泄を促す医療処置を伴う援助 (1)グリセリン浣腸	講義
14回		グリセリン浣腸	演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験、演習課題		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

【日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	日常生活の援助技術Ⅲ (姿勢と体位、睡眠・休息)		対象学年・時期	1年次・前期	
			単位数	1	
			時間数	30	
講師名	教員		講義時間	29	
			テスト時間	1(45分)	
学習目標	1. 様々な移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する				
回	主 題	学習内容及び方法	講義形態及び教室		
1回 2回	1. 姿勢・活動	1) 基本的活動の基礎知識：活動とは 2) 良い姿勢とボディメカニクス 3) 活動・運動の能力のアセスメント	*アクティブラーニング 講義		
3回 4回		1) 体位 2) 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	講義		
5回 6回		(1) 体位変換 (2) 車椅子への移乗・移送	演習 (実習室)		
7回 8回		(3) 歩行・移乗・移送について ①歩行介助(歩行器、松葉杖、T字杖) ②ストレッチャーへの移乗・移送	演習 (実習室)		
9回		※車椅子への移乗動作技術	技術チェック (実習室)		
10回		1) 運動機能維持・拡大に向けた援助 (1) 自動・他動運動 (2) ROM	講義・演習 (実習室)		
11回		2. 睡眠・休息の援助	1) 休息の種類と意義 2) 睡眠・休息状態のアセスメント 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4) 睡眠障害とその援助方法	講義	
12回 13回		3. 安楽確保の技術	1) 体位保持(ポジショニング) (1) 安楽な体位の調整 2) 褥法 (1) 温褥法 (2) 冷褥法	講義・演習 (実習室)	
14回			1) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 (1) リラクゼーション法 (2) 熱布バックケア 2) 安楽を促進するためのケア	講義	
15回		まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)				
参考文献					

【日常生活の援助技術Ⅲ(姿勢と体位、睡眠・休息)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 2.身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔維持の技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 人間の健康と清潔 2. 清潔援助とは	1) 健康な人の清潔の意義 2) 健康を害した人の清潔援助の必要性 3) 清潔援助の看護師の役割		*アクティブラーニング 講義
2回	3. 清潔援助の基本 4. 全身的な清潔①	1) 身体各部の清潔の援助方法 2) 全身的な皮膚の清潔(入浴・シャワー浴)		講義
3回	5. 療養生活における衣服の機能	1) 衣服を身につけることの意義 2) 病衣の種類と選び方・状態に合わせた寝衣交換		講義
4回	6. 全身的な清潔②	1) 状態に応じた清潔援助技術(清拭)		講義
5回	7. 対象の状態に応じた寝衣交換	1) 臥床患者の寝衣交換(前開きパジャマ) 2) 全身清拭・寝衣交換の実際		演習 デモンストレーション
6回	8. 清潔援助①	1) 臥床患者の清拭		演習
7回	8. 清潔援助②	1) 臥床患者の全身清拭		演習
8回	9. 部分的な清潔①	1) 手浴・足浴の意義と効果 2) 状態に応じた手浴・足浴の援助技術 3) 陰部洗浄の意義と効果 4) 状態に応じた陰部洗浄		講義
9回	10. 部分的な清潔② 11. 整容とは	1) 口腔ケアの意義と効果 2) 状態に応じた口腔ケア 3) 整容の意義と効果 4) 整容の援助技術(爪切り・耳・髭剃り)		講義
10回	12. 部分的な清潔③	1) 洗髪の意義と効果 2) 状態に応じた洗髪援助技術		講義
11回 12回	13. 部分的な清潔援助	1) 臥床患者の部分的な清潔援助(洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄・口腔ケア《歯磨き》)		演習
13回	14. 清潔援助③	1) 患者の状況に応じた臥床患者の清拭と寝衣交換		演習
14回	15. 清潔援助④	1) 「清拭・寝衣交換」技術チェック		技術チェック
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験、演習課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
参考文献				

【日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	ヘルスアセスメント		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1単位
			時間数	30
講師名	教員		担当時間数	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 看護におけるヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントの考え方 2)アセスメントプロセス		*アクティブラーニング 講義
3回 4回	2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー(健康歴)	1)問診の技術 2)ヘルスヒストリーの実際		講義 演習
5回	3. フィジカルアセスメント	1)フィジカルアセスメントの基本技術 (1)視診 (2)触診 (3)聴診 (4)打診		講義 演習
6回 7回 8回 9回		2)身体各部の測定 (モニタリング・フィジカルイグザミネーション)		講義 演習
10回		1) 系統的フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸器系 (2) 心臓・循環器系		講義 演習
11回		(3) 腹部・消化器系 (4) 筋・骨格系		講義 演習
12回	4. 系統別アセスメント	(5) 神経系 (6) 頭部・頸部・視聴覚系		講義 演習
13回	5. 心理・社会的側面からのアセスメント	1) 意識状態、ストレス、自己に対する知覚のアセスメント 2) 文化、社会・経済状況、家族、個人の価値観のアセスメント		講義 演習
14回	技術確認	バイタルサイン測定の技術チェック		技術チェック

15 回	終講試験	筆記試験／まとめ	
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況		
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版		
参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント(メディカ出版) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第 2 版(南江堂)		

【ヘルスアセスメント】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	解剖生理学を理解し講義に参加する 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	--

*この科目は、実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	成人看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 成人期における対象の特徴を理解できる 2. 成人期における対象への看護の機能・役割について理解できる 3. 成人期における保健活動の意義、健康の保持増進を図る援助を理解できる 4. 健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	I.成人期における看護の理解 1. 成人各期における特徴	1) 青年期の成長発達と発達課題の特徴 2) 壮年期・中年期の成長発達と発達課題の特徴 3) 向老期の成長発達と発達課題の特徴		*アクティブラーニング 講義
2回	2.成人の生活と健康	1) 生活の視点から見た成人の健康 (1)成人を取り巻く環境 (2)成人のライフスタイルの特徴 2) 成人期の健康観 (1)生と死の動向、受療状況		講義
3回		3) 健康教育 (1)セルフマネジメント、アンドラゴジー、ペタゴジー、エンパワーメントエデュケーション等		講義
4回	3.健康を阻害する生活行動要因	1) 健康な生活の保持・増進への看護 (1)生活習慣病予防 (2)ストレス (3)職業に関連する健康障害		講義・演習
5回		2) 健康診断の重要性と健康生活保持のための指導 3)健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み		講義・演習
6回	4. 看護の対象、看護の視点	1) 主体的な健康行動の促進 2) 健康生活を支援する環境づくり 3) 看護の場と主な活動内容 4) 主な活動内容 5) 症状マネジメントに向けた支援		講義 グループワーク
7回	5.成人の特性や能力に応じた看護の目的	1) 自立した存在を尊重したアプローチ 2) 独自の考えや行動パターンを尊重したアプローチ 3) 家庭・社会で役割を担う存在を尊重したアプローチ		講義 グループワーク

8回	II.健康レベル（経過別） に応じた看護 1.急性期看護とは	1) 健康レベル（経過別）とは 2) 急性期の概念および看護の概要 3) 生命の危機状態 4) 急激な健康破綻をきたした人の看護 5) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴（危機理論） 6) 早期回復に向けての援助（酸素化促進、消化管機能維持、体液の改善） 7) 救急看護・クリティカルケア看護	講義 グループワーク
9回	2.回復期看護とは	1) 回復期の概念および看護の概要 2) リハビリテーションの概念および看護の概要・国際生活機能分類（ICF） 3) 社会復帰に向けた看護の概要	講義 グループワーク
10回	3.慢性期看護とは	1) 慢性期の概念および看護の概要 (1)慢性期の健康状態とは (2)慢性的経過をたどる対象の精神的・社会的特徴 (3)セルフコントロールへの援助 (4)慢性期の寛解と増悪	講義 グループワーク
11回	4.終末期看護とは	1) 終末期の概念および看護の概要 (1) 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的影響と苦痛 (2) 苦痛のアセスメント（全人的苦痛） (3) 疼痛コントロール	講義 グループワーク
12回		(4) QOLの保証（ACP、リビングウィル） (5) グリーフケア・悲嘆へのケア (6) デスカンファレンス (7) 看取りの場（緩和ケア病棟、在宅） (8) 臨終時の看護（死後の処置含む）	講義 グループワーク 演習
13回	5.治療と看護	1)手術療法時の看護 (1)術前の看護 ①手術療法・身体侵襲の意義②術前患者のアセスメント ③術前看護の役割 (2)術中の看護 ①麻酔法の種類と合併症 ②術中患者のアセスメント ③術中看護の役割④外科的ガウンテクニック⑤外科的手洗い (3)術後の看護 ①術後経過と生体反応 ②術後患者のアセスメント ③術後合併症の早期発見と予防 2)集中治療時の看護	講義

14回		3)薬物療法時の看護 (1)薬物療法を受ける患者の援助 (2)抗がん剤投与時の観察と援助 (3)有害事象に対する症状のマネジメント 4)放射線療法時の看護 (1)放射線療法を受ける患者の援助 (2)放射線防護 ①被爆防護の3原則 (3)医療者の健康管理 5)食事療法時の看護 (1)食事療法を受ける患者の援助 ①栄養・カロリー低下の予防 ②自己管理への援助	講義
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験 演習課題 演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
参考文献			

【成人看護学概論】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	高齢者看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	教員		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる 2.社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる 3.老年期における健康課題と看護の役割について理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. ライフサイクルからの高齢者の理解	1) 老年期の定義 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題(エリクソン、ペック、バトラー)	*アクティブラーニング 講義	
2回	2. 生活史からの高齢者の理解 3. 高齢者の生活の変化	1) 生活史からみた高齢者 2) 高齢者の多様性 1) 生活の場、住宅環境 2) 生活リズムと生活習慣 3) 役割と生活活動、余暇活動 4) 就労・雇用 5) 収入・生計	講義	
3回	4. 加齢に伴う変化	1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化 3) 精神的変化 4) 社会的変化 5) セルフケア	講義	
	5. 老年期の健康課題(身体的・精神的・社会的)	1) 老年期の健康の捉え方 (1) 生きがいと生活の満足感 (2) ストレングス (3) サクセスフルエイジング	講義	
4回	6. 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) フレイル	講義	
	7. 生活(療養)の場に応じた看護(病院・施設・在宅等) 8. 高齢者と家族	1) 高齢者とヘルスプロモーション (1) 地域包括ケアシステム 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 (1) 介護保険施設 (2) 地域密着型サービス (3) 住まい 1) 家族構成の変化 2) 家族形態の変化 3) 老年者と家族の人間関係 4) 介護と家族	講義	

5回	9. 高齢者の保健・医療・福祉の動向	1)人口学指標 2)健康指標 3)老人保健法 4)老人福祉法 5)長寿医療制度 6)年金制度 7)介護保険 8)医療費の助成制度の活用 9)保健医療福祉施設	講義
6回	10. 高齢者とQOL 11. 老年看護における倫理的課題	1) 老年者の尊厳と権利擁護 (1) 高齢者に対するスティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護(アドボカシー) (4) ノーマライゼーション (5) 高齢者を支える社会資源 ① フォーマルサービス・インフォーマルサポート 1) 高齢者虐待 (1) 養護者・従事者による虐待 (2) 発生要因と予防に向けた支援 2) 身体拘束・抑制 3) 高齢者の権利を守る制度 (1) 日常生活自立支援制度 (2) 地域福祉権利擁護事業・成年後見制度	講義
7回	12. 老年看護の役割	1)経過に応じた看護 (1) 高齢者への介護予防・認知症予防 2)治療に応じた看護 (1) 高齢者への薬物療法・服薬管理 (2) 高齢者へのがん治療と看護 (3) 家族への援助	講義
8回	終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考文献	新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論/老年保健 (メヂカルフレンド社) 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは (南江堂)		

【高齢者看護学概論】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	DVD 等を活用し高齢者を理解する
--------	-------	---------	-------------------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

授業科目	臨床看護技術演習		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	教員		担当時間数	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし、実践できる能力を習得する 2. 卒業時の技術到達度をふまえて、自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態及び教室	
1回	1. 複数患者の看護	1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 2) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 (援助の優先順位の決定とタイムマネジメント)	講義	
2回 3回 4回 5回	2. 複合事例の症状のアセスメント	1) 臨床推論の展開 2) 優先度の決定	演習	
6回 7回 8回	3. アセスメントに基づく看護の実施・評価	1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) 複合した治療処置の必要な患者への援助	講義 演習	
9回 10回	4. 看護チームの一員としてのメンバーシップ行動	1) 指示と報告の基本 2) チームワークとリーダーシップ 3) 看護チームでの情報伝達・共有	講義 演習	
11~15回	5. 自己の看護技術の達成状況と課題	1) 卒業時の技術到達度をふまえて、技術演習を行い、自己の課題の明確化	演習	
評価方法	レポートおよび課題			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践①(医学書院) 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学①(医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			

【臨床看護技術演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習の準備、技術練習を行う
--------	------	---------	---------------